



特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会
会報 第102号 2021年3月5日発行

本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

谷戸に春の気配が満ちてきました



白、青、黄色、桃色…地面に、木々に、彩りが発見できてうれしくなります。人間界がどうあろうと、土に鎌を入れる季節が巡ってきました。保全作業はいつからでも参加できますが、やっぱり春から始めてみませんか。

お知らせ & 新規募集

春の谷戸まつり 4/29(祝・木)10:00~12:00

場所：野外生活体験広場(荒天中止)

炊き出しはおこないません。

頒布コーナー 米・畑の収穫物・藁・薪・麦わら細工

体験コーナー のごぎり体験ほか

マスク着用にてご来園ください。コロナ感染症拡大防止策を行っております。ご協力をお願いします。

オリエンテーション 4/11(日)10:00~12:00

会場 管理棟2階 研修室 動画配信もします。
申し込み・お問い合わせはメール、電話にて当会まで

里山探検隊

農体験や谷戸の遊びをします。

★小学生(会員)対象 ★全6回 通年参加できる方

★活動時間 10時~13時

4/1より申し込み開始

保護者の方へ

オリエンテーション4/11(日)にご参加ください

谷戸塾

保全作業、観察会、農芸体験で谷戸を学びます。

★活動時間

9:30~12:00(保全作業)、13:30~15:00(座学)

谷戸（里山）が公園になってから30年近くがたちました。谷戸で作業をしていると「ご苦労様です」と声をかけられることが多くなりました。一般の人から見ると、都市公園とは違った心地よい環境ができていのでしょうか。昔ながらの畔がある田んぼや段々畑、所々手入れされた林や散策路に癒やされるのかもしれない。子どもたちや家族連れにとっては、生きものと触れ合うことができる貴重な場所となっているようです。公園管理の立場では、散策路と広場だけ草刈りをして、なるべく木を切らず、自然は遠くから眺めて楽しめばよいというのが基本ですから、里山のような自然は残せません。自然保護の考え方も、この30年で大きく変わり、手つかずの自然だけでなく、里山のように人手が入られた自然の重要性が認知されるようになりました。鎌倉のような都市近郊の里山は、生活のための私有地から、生きものの棲家、生きがい、教育の場としての公有地へと変わりつつあります。これからは各地の里山で、その場所に適した管理方法が模索される時代です。谷戸のように狭い面積の里山を、良好な状態で保全するには工夫が必要です。昔ながらの田んぼの畔を手作業で維持したり、一部の草刈りを当会が担当しているのもそのためです。機械力で能率をあげるより手作業で丁寧な作業をした方がよい場合もあるのです。業者には出来ない細かい配慮を市民が行うために、私たちの活動がよい事例となればと願います。公園管理（業者）ができない細かい配慮とは何か、業者と市民の作業の差別化を考えていきたいと思えます。

谷戸の様子

1月は谷戸でツララができる寒さでしたが、2月には春のような暖かい日もあり、寒暖の差が大きい冬となりました。2月15日に大雨が降り、アカガエルが一斉に産卵しました。北日本に大雪が降るたびに、その影響でしょうか、野鳥（冬鳥）の種類や数が増えて行く様子が観察できました。1月は田んぼでタシギが見られ、シロハラ（ツグミの一種）の数が増えました。2月はウソヤマビワのように、数年に一度しか来ない野鳥も見かけました。1月半ばには、日が長くなるのを感じるのか、ヤマガラ、シジューカラなどがさえずりを始めています。2月16日にはウグイスも「ホーホケキョ」と鳴き始めました。

谷戸の生きもの

～ピロードツリアブ 季節限定、見られるのは春だけ！～

谷戸に春が到来したことを告げる昆虫の一種。3月、まだ風も冷たく枯草が目立つ中、タンポポ、オオイヌフグリなど数少ない花を求めて蜜を吸う姿を目にする。一角獣のような長い口吻は人の血を吸うためではない。（そういうアブもいる）ピロードの衣を着て、空中に吊られたようにホバリングしていることが多いのでこの名前がついた。アブの仲間は雌雄を顔で見分けられるものが多く、雄は目の間がくっついている。（写真はオス）花以外では日当たりのいい畑などの裸地で見かけることも多く、産卵と関係があるようだが、詳しい生態は分からない。（たのくろまめお）



谷戸往来

寄附をいただきました 2020年度、以下の方に寄付をいただきました。谷戸保全活動に有効に使わせていただきます。ありがとうございました。（敬称略） 磯尾佳代子 蛭名喜代作 奥井伸子 岡野万里 岡村静子 川上克己 木埜山康子 早乙女千博 田中たかね 西山忠治 野田真紀子 灰原麻希子 藤本実太郎 安田紀代子 山本勝久 山本真嗣（道具の寄付）白井智子

**(公財)イオン環境財団
助成決定**

第30回イオン環境活動助成
公募に応募した事業について採
択されました。

**班活動の動画
YouTubeに載せました**

班活動の様子がUPされています。
当会のホームページから是非ご覧下さい。




田んぼ班 

冬の間の作業も順調に終わり、春の気配に心浮き立つ季節になりました。苗床や田んぼでは、いよいよ今年の収穫に向けての作業が始まります。今年は、今年の収穫の中から重い種籾を選別して蒔き、稲苗を育てます。



 苗床の準備



 雑木林の除間伐

雑木林管理班 

1月に雑木林を調査・測定し、昨年と比較して少しずつ生長していることを確認しました。間伐、枝打ち、および草刈りした材や草は、谷戸活動全体に渡って活かされます。春先には薪も作る計画です。


畑班 

大量の落ち葉とスタッフに恵まれて、さつまいもの苗床作りは無事終了。これから温度・湿度管理、そして伏せ込みと重要な工程が待っています。5月に立派に育った苗を今年はどこに植えようかな。

農芸班 

春告草の異名を持つ梅は、寒さに屈せず凛とした姿で開花し、忍耐強さ（花言葉）を体現。さまざまな変更を余儀なくされましたが、新年度の活動に一足も二足も早く、思いを巡らせています。



 樹木の観察

植物育成班 

この時期は樹木の観察に適しています。葉が少なく樹形や新芽などが見やすく、じっくり観察できます。土手の手入れも大切です。枯草などを取り除くと、スミシなど春の野草の芽吹きがよくなります。

自然遊び班 

里山探検隊らしく、谷戸をやぶごぎしながら冒険しました。★たくさん山をあるいた。つかれたけどたのしかった。がけをくだるところはヒヤヒヤした。また山あるきたい。(小5)

生態系保全班 

アカガエルの卵塊が確認できました。産卵に備えて、田んぼや湿地の水位をカエルの産卵の好みに合わせて整備しています。毎年調整していると、カエルが好む状態がわかってくるのが面白いところです。

3月

- 7日(日) 田 道具の手入れ ☆
 畑 道具の手入れ ☆
 雑 山作業道具の手入れ ☆
 自 父と子の里山体験 ▶
 講座「早春の谷戸散策」 ☆
- 10日(水) 畑 じゃがいもの植え付け ❖
- 14日(日) 田 畔・水口直し
 雑 雑木林の除間伐
- 15日(月) 畑 大根の間引き・草取り
- 17日(水) 畑 さといも予定地の耕し
 植 早春の植物の生育地の手入れ ❖
- 21日(日) 田 畔・水口直し
 雑 雑木林の除間伐 ❖
- 24日(水) 生 オタマジャクシの保護作業 ❖
- 28日(日) 田 塩水選、浸種
 雑 斧で薪割 ❖

4月

- 4日(日) 田 苗床整備
 雑 間伐材の活用 ❖
- 7日(水) 植 雑木林の植物調査
- 10日(土) 田 種籾蒔き
- 11日(日) 田 種籾蒔き ☆
 畑 さといも予定地畝作り
 雑 竹林の整備 ☆
 オリエンテーション
- 18日(日) 田 田うない ❖
- 21日(水) 畑 さといもの植付け ❖
- 25日(日) 田 田うない
- 26日(月) 畑 畑の整備
- 28日(水) 植 藤の花の観察 ❖
- 29日(木・祝日) 春の谷戸まつり

5月

- 2日(日) 田 田うない ☆
- 5日(水・祝) 田 畔草刈り・苗床草取り ❖
- 9日(日) 田 くろつけ
 自 里山探検隊「さつまいも苗植え」
- 10日(月) 畑 さつまいも畝作り ☆
- 15日(土) 田 くろつけ
- 16日(日) 田 くろつけ ☆
 畑 畑の整備 ❖
- 19日(水) 植 貴重な植物の分布調査
- 22日(土) 田 しろかき ☆
- 23日(日) 田 しろかき
- 26日(水) 畑 さつまいも苗植え ☆
- 28日(金) 田 苗取り・紐張り・しろかき
- 29日(土) 田 田植え
- 30日(日) 田 田植え ❖

今後の情勢によって中止や延期の可能性があります。
 ホームページ、または事務所にご確認ください。

☆ 谷戸塾 ❖ 里山一日体験
 ▶ こども里山一日体験、父と子の里山体験
 会員以外の方 参加費 500 円/組
 各班活動 農家風休憩舎 9:30 集合
 (農芸班は、10 時)



田：田んぼ班 畑：畑班 雑：雑木林管理班
 農：農芸班 自：自然遊び班
 生：生態系保全班 植：植物育成班

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内

TEL/FAX 0467-47-1164 木曜を除く 10 時～16 時

ホームページ : <https://yato-yamasaki.sakura.ne.jp>

Eメールアドレス:ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

● 次号(会報103号)は、2021年5月に発行予定

